

平成28年度第2回 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 3階中会議室

H29.2.23 18:30～20:30

1 開会

2 議事

①高知市口腔保健支援センター事業について（報告）

事務局より説明

質問・意見はなし

②今後の取組について

保育園、学校での歯科保健の取組について

生活習慣病予防と連携した歯周病予防の取組について

事務局より説明

保育園・学校での歯科保健の取組について

【伊藤副会長】

フッ化物洗口が年々広がってきているが、みなさんのご意見、ご感想はないか。

【中山委員】

広がったとは言っても、実施している園が60園の中の18園なので、5割以上になっ
てはじめて広がったといえるのかなと思っている。来年度も園長会のほうで引き続き、
説明をし、広がっていければと考えている。

今日配られている大人の歯周病のリーフレットがあるが、子ども用のリーフレットも
あれば、家庭の中で広がっていくのではないかと思う。

親育ちの面に活かされればと思う。

【田岡委員】

フッ素洗口が始まった園は継続できているのか。途中でやめたところはないのか。

【事務局】

やめることなく継続できるような支援を行っている。開始した園や学校には毎年、年
に最低1回は支援に行っている。次年度の指示書作成に関しての働きかけや、児童の洗
口をしている様子を見せてもらい、きちんとできているか、先生方の関わりはどうか、
などの確認をしている。実施状況によっては、公立の園は保育幼稚園課とも相談しなが
ら、複数回支援を行っている。今のところ、やめた園や学校はない。

【山村委員】

昼食後の歯みがき実施状況が四国四県の中で他県に比べて、高知県が伸びていないのは、どうしてか。

【伊藤副会長】

高知県の風土というような気はする。自分達が子どもの時代から、学校では取組んでいなかったように思う。それがそのまま続いているのではないか。

小規模校は比較的取組みやすいため、やっているところが多い。

なかなか進んでいないところは、歯ブラシの保管方法や、手洗いの蛇口の数も少ないなどの理由があるのではないか。

あとは自分の感覚ではあるけれど、他県は始業が8時5分とか8時10分で、高知県は8時20分から8時25分である。給食も、他県は12時10分から12時15分であるが、高知県は12時30分から準備で、12時45分から食べ始め、食べ終わるのは13時10分頃のため、時間的に厳しいという理由もあるのではないか。

【伊藤副会長】

今年、一宮中学校校区が、フッ化物洗口の動きが出ている。小学校校長会でも話を聞いたが、近隣の学校と一緒に検討すると進めやすいと思う。

自分の学校も、校区内の保育園で実施しているため、保小連携の部分で園長先生にも話を聞きながら、検討していきたいと思っている。

小、中学校校長会で、教育環境支援課のほうからも話があるが、自主校長会の中では、2回ほど自分も話をしている。その中で、四国四県の歯磨きの実施状況についても報告をしている。高知県は非常に低いということで何らかの取り組みを進めていかなければいけないという意識づけはできていると思う。

【教育環境支援課】

先ほどの、四国四県の歯磨きの実施状況を見て、私もびっくりした。市内の状況は分かるけれど、他県の状況は他の養護教諭も知らないのではないかと思った。

4月に高知市内の養護教諭の研修会があるので、その中でこの状況についてお話し、養護教諭の中でも検討をしていきたいと思っている。

【田岡委員】

フッ素に関してだが、むし歯はフッ素で防ぐことができるが、歯磨きができていないということは、歯肉炎になり、将来歯周病になる。歯磨きは清潔習慣であり、むし歯予防のための歯磨きというのは歯科の考え方では違う。

むし歯はフッ素で防ぎ、歯肉炎・歯周病は歯磨きで防いでいくという捉えで理解してほしい。

食器を使ったら洗う、と一緒に歯を使ったら洗ってほしい。そういったことが、身だしなみをきれいにする習慣にもつながっていくのではないか。

僕も高知市の歯磨きの実施率の低さにびっくりした。教育現場ではいろいろ課題は

あると思うが、中学校から集団で取り組むのはなかなか難しいと思うので、小学校のうちから、何かしらの取り組みを検討してほしい。歯を磨かないと気持ちが悪い、と子供たちが感じるような取り組みを進めて行ってほしい。

【中山委員】

最近メディアでいろいろな情報があるが、食後すぐに磨くのはよくない、と聞いたことがある。それについてはどうか。

【田岡委員】

脱灰、再石灰化の部分で言われていることだとは思いますが、基本的に患者さんには磨いていいと伝えている。歯が削れるほどの歯磨き圧で磨くことはないため、今は、問題ないと説明している。

【伊藤副会長】

事務局のほうから、フッ化物の Q&A について説明をお願いしたい。

【事務局】

現在、学校へ支援をさせていただく中で、いろいろな疑問を持っている先生方も多いため、来年度の事業でフッ化物洗口を学校などで実施する上での不安や疑問などを解消するために、“フッ化物洗口 Q&A”を市歯科医師会や市教育委員会のご協力をいただき作成予定である。少しでも後押しになればと思っている。

【伊藤副会長】

分かりやすい Q&A を作成予定のため、それが学校現場で進めていくうえでの一つの資料となるため、自分も校長会等で周知いきたいと思う。

なかなか実施率は急激には上がらないが、少しずつ広がっていければと思っている。

【田岡委員】

フッ素洗口をしているから、歯磨きをしなくていいというわけではなく、歯磨きは歯肉炎予防として、清潔習慣として、取り組んで行ってほしいのだが、実際どうやって啓発していけば効果的か、ご意見をいただきたい。

【山村委員】

スマホのアプリでもそういった歯磨きの啓発のアプリがあるとテレビで見たことがある。

【中山委員】

生活習慣はほとんどが家庭の中のことであるとも思う。小さい時から伝えていくことは保護者の役割であると思うため、家族みんなで歯を大切にしていこうということを意識していくことが重要だと思う。

学校で取り組むだけでなく、家庭内でも取り組んでいけるような啓発が必要だと思う。

【伊藤副会長】

むし歯や歯周病は家庭の取組と密接につながっていると思うので、学校や園だけでなく、家庭へも啓発していくことが必要だと思う。

【竹島委員】

昨日、県の子ども支援の会があり、生活習慣を見直すという取り組みを行っているという報告があった。

また小学校に上がると副読本というのがあるため、その中でも歯のこと、歯周病のことが取り上げられているため、学校から家庭へ持ち帰った時に、どれだけ家庭へ普及しているかということも大切だと思う。

学園短大の指導が29校ということだが、その他の学校でも保健室等で養護教諭の先生が指導する取組もされているため、そういった取組や、今ある資料等が、家庭へ浸透されていくような方法を検討していけばいいと思う。

【伊藤副会長】

資料もたくさんあり、学校等でもいろいろな取組をしている。養護教諭等も保健日より家庭へお伝えしていると思うが、膨大な配布物があるため保護者の目に留まっていないため、手紙を配るだけでは意識づけできていないという課題がある。方法を検討していく必要があると思う。

生活習慣病予防と連携した歯周病予防の取組について

【伊藤副会長】

歯周病予防普及啓発について、企業での健康教育、いきいき健康チャレンジ応援講座での啓発、学生さんへの啓発など口腔保健支援センターが、機会を捉えて情報発信しているとの報告があったが、委員のみなさんの意見、感想を聞かせてほしい。

【上原委員】

今年度は、企業向けの歯科の健康教育を、口腔保健支援センターに協力をしてもらい実施した。県下3箇所に工場がある企業で、今まで協会けんぽのほうで3年間健康教育を行ってきた。今年度は“全身疾患と口の健康”についての内容はどうかと企業側に投げかけ、実施することとなり、これまでで一番好評であった。

お口の健康は身近であるし、1回25名で実施したが、そのうち5名ぐらいは定期的に歯科医院に受診していた。それを他の人が知ることによって、波及効果があったように思った。健康教育の内容もガムを噛んだり実習を行ったりと、参加型の研修会ですごくよかった。

リーフレットについて、普段から上手にリーフレットを使うことができていないので、どんな風に活用したらいいか教えてほしい。

【田岡委員】

今回作成したリーフレットは、歯周病チェックがあるので、まず、チェックをしてもらったかどうか。チェックが入った人は、中を開いてもらい、歯周病についてや全身とのかかわりについて等を説明してもらい、歯周病の治療や予防のために、歯科受診をすすめてもらったと思う。

【竹島委員】

いきいき応援講座 1 回目の時は、歯科のチェックコーナーがあり、受けた方が列になって並んでいて、関心が高い方が多かったと思う。

歯周病予防の普及啓発の女性健診、特定健診から“診察のお願い”を発行されたという説明があったが、どれぐらいの人数にお配りしているのか。

【事務局】

正確な人数は手元にないが、女性健診では、要精密検査と判定される方は多いが、現在受診中の方以外に“診察のお願い”をお渡ししている。だいたい受診者の半分近くの方にお渡ししている。

【竹島委員】

“診察のお願い”を受け取った方のどれぐらいが受診につながっているかが大切だと思うので、1 回目が無料だったらいいと思う。

後期高齢者の歯科健診は無料だと思うが、後期高齢者はすでに受診されている方が多いと思うので、若い世代にそういう機会があればいいと思う。

【事務局】

10 年ほど前には個別歯科健診といって 40 歳以上の方を対象に、全員に受診券を発送していたこともあるが、健診を受けに歯科医院に行くという行動に移しにくいといったことや、健診に行ったものの結局は治療が必要と判定される方が多く、健診として成り立たないといった現状もあった。

そういったことも踏まえ、健診ではなく、歯科医院受診につながる動機づけをするためにはどんなことがいいかと検討してきた経過がある。

また、歯周病健診で国の補助金をもらう事業もあるが、財政状況も厳しいため、現在は自己負担金をもらうことが前提になる。健診の自己負担金が、普通の歯科診察よりも高い金額では、市民の方にはなかなか受けてもらえない。歯科医院に足を運ぶための後押しになるための動機づけの取組を行っていきたいと考えている。

健診という方法だけでなく、どうやったら市民の方が歯科医院へ出向いてくれるのか、という視点でご検討いただけたらありがたい。

【前田委員】

先日、健診を受けたときに、この問診票を最初に渡されて、あとで何かあるのかな、と思いながら記載した。

保健福祉センターだったが、待ち時間等もあったので、その時にリーフレット等渡

しても見る時間があるのではないかと思った。

学校での歯磨きの件を、小学生の子どもに聞いたら、歯と口の健康週間中だけやっているとのことだった。あとは、給食が終わったらすぐに掃除に入っているようで、時間がないのかなと思った。愛媛などは、時間を決めて全校で取組んでいるので実施できているのではないかと思った。

【大野委員】

リーフレットの活用については、すごくいいリーフレットだと思うので、短大に回してもらったら、学生に配布をする。

歯科衛生専攻以外の学生もいるので、ぜひ活用したい。生活習慣の確立のために大事な普及啓発だと思う。

最初に小学校の歯磨き指導については話が出ていたが、保育園 16 園に指導に行っているの、また何かあれば言っていただけたらと思う。

【田岡委員】

学園短大が行っている歯磨き指導が、小学校では 29 校だが、これ以上増えても大丈夫なのか。短大の授業等を圧迫しないのか。

【大野委員】

大変だが、圧迫しないように中身を工夫しながら行っている。

学生にとっても学びの場なので、できる限りは受けたいと思っている。

来年度、小学校は 31 校希望が出ていると聞いているが、2 年生を中心に実習に行きたいが、3 年生にも協力得て行う予定で、実施時期を小中学校と調整しながら小学校 31 校、中学校 9 校、全部実施したいと考えている。

【田岡委員】

学園短大が指導に行ったときに、学校側にもお昼に歯磨きをするように働きかけを行うことは難しいか。

【事務局】

学園短大が指導に入るときには、必ず健康増進課、教育環境支援課の職員も学校へ出向いている。この事業は、学園短大の指導 1 回だけのお祭りの取組にならないように、学校で継続した取組になるよう、必ず学校でもう 1 回指導する機会を義務付けている。その時に使う歯ブラシ等は健康増進課から提供し、バックアップをしている。

こういった取組から、学園短大が歯磨き指導を行う学年以外の学年に、学校が指導を行うなど、養護教諭の指導は少しずつ前向きになってきている。

学園短大の指導を希望することが、まず第 1 歩目で、そこから学校で継続した取組につながってきたのが第 2 歩目である。

いきなり学校での毎日の歯磨き実施はハードルが高く、少しでも口腔のことについて、学校での取組みを広げていってもらうことを目標にしている段階である。

【教育環境支援課】

開始当初の平成 22 年度は参加する学校も少なく、年に 2 回学園短大に指導に行ってもらっていた。年々、右肩上がりに希望校が増えるにつれ、何年か続けて実施した学校には、2 回目の指導を短い時間でもいいので学校で取組んでもらう等、少しずつ学校での継続した取組みにつながる形をとってきた。校数も増え、また中学校も希望が出てきて、その時にどういった取組なら可能かと相談し、春と秋に実施時期を分散するなど、工夫をしながら行ってきた。

今後とも知恵を出し合い工夫しながら裾野を広げていくよう取組んで行きたいと思う。

【田岡委員】

中学校は学校給食が始まると思うが、学校給食が始まるのをきっかけに、歯磨きをセットで導入するのはどうか。

【教育環境支援課】

中学校給食は、今のところ平成 30 年の 2 学期開始を予定しており、未実施校 13 校を対象に給食センターを 2 つ整備する予定である。未実施校の現状としては、手洗い場が不足しているとのことで、手洗い場設置の件と併せて、先ほどのご提案を学校で検討してもらうことは可能ではないかと思う。

給食を開始するにあたっての手引きを、教育環境支援課で作成するため、その中に盛り込んでいくことも可能ではないかと思う。

【伊藤副会長】

前任校が大規模校だったが、学園短大の学生さんに来てもらい体育館で歯磨き実習を行ったことがあるが、人数が多い学校のため段取りがなかなか大変であった。

学校によっては、人数が多いと、場所ややり方等の検討も必要で、取組む意欲をもった人がいないと進みにくい部分もある。

あと、5 月の終わりはほとんどの学校が運動会を行い、6 月には水泳が始まるなど、年間スケジュールが決まっているため、なかなか新しいことを入れるのは難しいということもある。

学校それぞれの特性があるため、まだ取組めてないところは何かしらの理由があると思う。それも踏まえて、学校へ意識づけはしていきたいとは思っている。

【伊藤副会長】

続いて、若い世代への取組についてご意見いただきたい。

【田岡委員】

若い世代への取組の妊婦歯科健診の啓発ということですが、妊婦さんや母親に歯科の啓発をすることはすごくいいことだと思う。

母親から子どもに、むし歯や歯周病菌が感染するということもあるが、母親が知識・意識を高め、口腔内を清潔にすることで、子どもや夫、その親へ広がっていきやすいと思う。

このリーフレットにもあるように、妊婦さんが歯周病になると早産のリスクが高まるため、啓発は重要である。どういったところで広く啓発していったら効果的なのか、みなさんにご意見をいただきたい。

【母子保健課】

妊婦歯科健診は昨年 8 月から、県の事業として開始し、高知市では、母子健康手帳交付時に妊婦歯科健診の受診券をお渡ししている。その際に歯周病についての周知啓発を行っているところである。また、妊婦教室も実施しているので、そういった機会も活用し、引き続き啓発等に取組んでいきたいと思っている。

【事務局】

今回このちらしを作成したきっかけは、母子保健課には母子保健コーディネーターという役割の方がいて、実際妊婦さんに面接をしているのだが、なかなか歯科健診のすすめ方は難しいという声もあり、活用してもらえたらと思ったのがきっかけではあったが、一律に母子健康手帳の中に入れてしまうと、ちらしもたくさんある中ではなかなか目を通してもらえないといった課題もあるため、産婦人科等で PR してもらうとか、他にもこんなところで渡したらいいのではないかというようなご意見があったらいただきたい。

【伊藤副会長】

最後の医歯薬連携の取組にも関わっているところだと思うが、つながりあるところから啓発することはすごく効果があることだと思う。せっかくいろいろな立場の方が集まって議論をしているので、それぞれの立場からのお考えを聞かせてほしい。

【山村委員】

医歯薬連携の会を進めてきたが、今回初めての連携の取組で、今までは歯周病に対して積極的にアドバイスをしている医師も少なかった。歯周病と全身疾患の関係もいろいろわかってきているところだが、病気になったら病院に行こう、むし歯になったら歯医者に行こうという方が多い。予防のために、という考えはなかなか広まっていない。

基本的な予防の取組をするということが、今後の医歯薬連携の中で大事なことだと思う。食と病気というあたりもすごく関係があり、甘い食べ物は口腔内にも影響を与える。そのあたりを含めた取組も今後検討が必要だと思う。

【竹島委員】

薬局の立場としては、処方箋を通じて、病院のほうから、歯科のほうからという受け皿的な役割になっている。連携の扇の部分になれるのではないかなと思う。

処方箋は病気になってからだが、薬局は OTC を扱っているので、OTC を買いに来たお客さんに声かけをすることや、歯ブラシや入れ歯の洗浄剤等を買いに来た方にも歯科の視点での声かけもできる。

ドラッグストアではなく、薬局で薬剤師の話を聞いて購入したいと思ってもらえる

ように、連携の要になっていけるように、今後なっていけたらと思っている。

【伊藤副会長】

医歯薬連携推進事業の取組について田岡委員，説明をお願いしたい。

医歯薬連携事業の取組について報告（田岡委員より）

【田岡委員】

来年度も取組を進めていくが、今やっている事業は、歯科健診を受けることが目的ではなく、定期的に歯科受診をする、治療よりも予防というような視点で取り組んでいきたいが、いかに市民の方々が口の健康に関心をもってもらい自発的に予防のための受診をしてもらうためには、リーフレットを活用するのはもちろんだが、他にこういった場面ではどうかというようなご意見をみなさんからいただきたい。

【伊藤副会長】

教職員のなかでは、“親知らず”が痛くなったという職員も多いが、痛みが出た時やトラブルが起こった時に、自分の口腔内を意識することが多い。そういった機会に啓発するのは効果的である。

【中山委員】

小さい時から、習慣づけるのが効果的だとは思う。妊娠したら歯科健診，出産したら家族で健診のような感じで、早い段階からそういった啓発が必要だと思う。

【前田委員】

“妊娠したら歯科健診を”のこのちらしを、母子健康手帳と一緒にお渡ししたらどうか。

【伊藤副会長】

母子健康手帳の中に掲載するのはどうか。

【事務局】

母子健康手帳の別冊には掲載している。またちらしは、母子健康手帳と一緒に渡すのは、いろいろな種類の啓発ちらしをお渡ししている中で、その中に入ってしまうと目に留まらない可能性がある。それ以外の方法で、何かいい機会がないかをご意見いただけたらと思う。

【伊藤副会長】

次へつなげるきっかけとしたら、高校3年生の時ではないか。卒業してからの口腔保健を考えるいい機会ではないかと思う。一人一人の意識を高めるためにはいい取組になるのではないか。

【事務局】

ご意見をいただいて、思い出したが、高知県の歯科医師会が高校生の女子を対象に歯科の啓発をモデル的に行っていた。またそういった取組を検討していけたらと思う

た。

また、医歯薬連携事業で作成したリーフレットだが、上原委員からも活用についてのご質問があったが、来年度は活用の仕方の解説書的なものを事業の中で作成していただけたらと田岡委員と相談させていただいている。

特定健診受診者にどうやったら使っていただけるか、薬局でどうやったら使っていただけるか、また企業向けの健康教育時に保健師さんがどうやったら活用できるかなど、このリーフレットの具体的な活用の仕方がわかるものを持っているので、その内容についてもご意見いただけたらと思う。

【田岡委員】

昨年度、ポスターを作成して、協会けんぽの事業所に配布していただいたと思うが、今回のリーフレット等も配布してもらうのは可能か。

また、先ほど説明があった手引きみたいなものがあったら使いやすいか。

【上原委員】

事業所での配布は可能。事業所の方もどう使ったらいいのかと思うところがあるので、ぜひ手引きがあればありがたいと思う。

【伊藤副会長】

ぜひ使いやすい手引きをお願いしたい。

閉 会

事務局より連絡事項

第2回検討会より高知県歯科衛生士会の方にも委員をお願いする予定。